

「自分も一緒に楽しめたら」

26歳で飼育係として入ってから28年。12代園長になるが、生え抜きは初めて。日焼けした精かな顔つきが印象的だ。就任時、職員へのあいさつは「おもしろい動物園にするべし」。東松山市の丘陵に広がる80秒もの園内を歩くと、若い職員が親しみを込めて「日橋さん」と呼ぶ。熱血漢の兄貴分に似つかわしい。

人

こども動物自然公園園長

日橋 一昭さん



少年時代、父親に上野動物園に連れていってもらったのが楽しみで、「総理大臣の次に偉いのは上野動物園の園長だ」と思っていました」と笑う。大学は経営学部に進学。3年の時、上野、多摩の動物園で社会教育活動のボランティアをしたことが動物園で働くきっかけになった。

開園を半年後に控えた79年、運営する県公園緑地協会へ。飼育係として希少鳥類の繁殖に力を入れ

につばし・かずあき 副園長から4月に現職へ。東京都立川市で動物病院を開業する獣医師の妻と2人暮らし。53歳。趣味はサッカー観戦と落語の鑑賞。

る一方、世界の100を超す動物園を私費で回った。レッサーバンダは樹上生活のため、海外では飼育舎に高木があるのを見て助言し実現。コアラも、来場者が間近で見られるよう見学通路近くにえさのユーカリを置く。「動物へのリスペクト(尊敬)の気持ちを持ってもらえたら」と一部動物舎を鉄柵でなくアクリル板で囲んだり、動物が美しい姿でいるよう体調管理に気を使う。

「自分の子供のころのような動物好きを増やすため、園内ガイドもやりたい。子供が集い、自分もガキ大将のように一緒に楽しめたら」。来場者が楽しくなる動物園へアイデアは尽きない。

【鈴木賢司】